



第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー

WS-19「プライマリ・ケアと文化人類学の協働を探る -COVID-19 を例に-」

【講師】

宮地純一郎（名古屋大学大学院総合医学教育学/

北海道家庭医療学センター/関西家庭医療学センター）

春田 淳志（慶應義塾大学医学教育統括センター）

木村 周平（筑波大学人文社会系）

飯田 淳子（川崎医療福祉大学医療福祉学部）

照山 絢子（筑波大学図書館情報メディア系）

堀口佐知子（テンプル大学日本校）

濱 雄亮（東京交通短期大学）

小曾根早知子（筑波大学医学医療系）

後藤 亮平（筑波大学医学医療系）

金子 惇（横浜市立大学学術院医学群）

総合診療医の皆さんの多くが、文化人類学という学問に触れたことは全くない、あるいはわずかにきいたことがある程度ではないでしょうか？実は、総合診療医と人類学者のスタンスには様々な共通点が見受けられます。具体的な現場の出来事から仕事を始めること、人や地域の個別性を重視すること、同じ事象を多角的に見ようとするとところ、情報を狭めるよりは広げることで出来事を探ろうとするとところなどです。

今回のワークショップでは、そういった共通点をいかしながら、今や社会のあらゆる局面を覆っているといっても過言ではない「**COVID-19**」をテーマに、総合診療医なら経験しうる具体的な事例から出発して、家庭医と人類学者が議論する場を持つことで、参加者の皆さんに文化人類学に触れてもらい、その考え方や姿勢をプライマリ・ケアにどのように活かせるかを考える機会を設ける予定です。